

信州 木曾

あげまつ

SHINSHU KISO AGEMATSU TOWN



小湊の滝



寝覚の床



赤沢自然休養林 赤沢森林鉄道

(一社)上松町観光協会

NAGANO

森林浴発祥の地 赤沢美林

[D-2]

日本三大美林のひとつに数えられる赤沢自然休養林、樹齢三〇〇年、雄大な木曾檜の世界。



Akasawa Recreation Forest

清冽な大地を歩き、
生命の息吹に触れる感動。

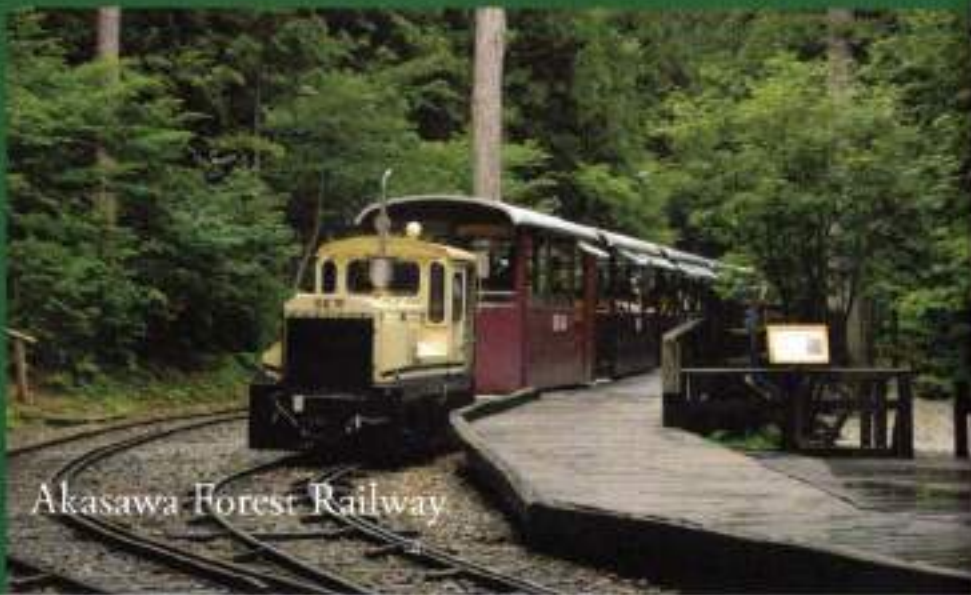


若緑がまばゆい森林の広場に安らぐ風よして紅葉に彩られる秋。嵐風並々の情の大地が、神皇の生命力を山に響かせます。尾道産の陸産物からきた赤沢自然休養林は、林内にじつじつと遊歩道コースが伸びる隙間の森、小径をたどれば、既述にはイワナやアゴの姿、清々しい水音、鳥のさえずりや可憐な草花に出会うことができます。心を休ませるのことができます。

赤沢自然休養林は、水曾の山と水と、歴史と文化に触れることのできる森。かつて水曾谷で活躍していた森林鉄道が、当時の車両をそのまま、樹の幹をたどっています。緑の風を浴びておる開放感はない爽やかさ。千代広場や、森の石燈籠や林間に触れる資料館などの施設も備えられ、体験と学習センターを一覽に楽しむことができます。



森林鉄道



Akasawa Forest Railway

かつて水曾谷の山林で活躍した森林鉄道。車窓を駆け抜けてゆく森と渓流の情景、清々しい風。

赤沢自然休養林 散策

世界的にも貴重な天然林は、
昔ながら、秋田県赤沢町に
日本三大天然林の一つとして数えられ、
森林浴効果の発せられるだけでなく、
気候や環境が
受しめる効果が認められ、
「二十世紀に残した日本の自然遺産」
「森林浴の聖地日本百選」
「おろろ風見」の地としても知られています。
「森林セラピー基地」にも認定されました。



- | | | | |
|-------|-------|------------|--------|
| ● 休憩所 | ● 駐車場 | ● トイレ | ● 森林浴道 |
| ● 展望台 | ● トイレ | ● コーヒーショップ | ● 森林浴道 |
| ● 展望台 | ● 展望台 | ● 展望台 | ● 展望台 |

- | | |
|---------|---------|
| ● 赤沢コース | ● 赤沢コース |
| ● 赤沢コース | ● 赤沢コース |
| ● 赤沢コース | ● 赤沢コース |
| ● 赤沢コース | ● 赤沢コース |



遊歩道 Waking trail
春の香、夏の花、秋の紅葉、冬雪や春の土の匂い、
四季では絶えずトリックが気分に響きます。



トムソーヤクラブ村 Tom Sawyer Club Village
毎年夏の期間の自然体験会、木工体験
など多様なイベントプログラムが好評です。



森林資料館 Forest Museum
赤沢町の林業の歴史、木製水車や野鳥
など赤沢の自然を、貴重な資料・文庫・写真
などで紹介。



森林鉄道記念館 Forest Railway Museum
木曾藩の御用車庫として活躍した森林
鉄道。当時の車庫や設備、道具、資料
を保存展示。

森林セラピー基地 赤沢自然休養林

「森林セラピー」とは、「森林の地味や自然を利用した運動・リハビリテーション、
カウンセリング」また、「森林浴、森林セラピーエーションを通じた健康回復・維持・増
進活動」のことを意味します。
森林セラピーの研究では、森林浴を行うことにより森林の樹木が発散する
フィトンチンによって免疫力をつかさどるNK細胞が活性化し、抗がん剤や抗
菌薬の効果が上昇し継続するなどの効果が明らかになっています。現代のストレス
社会において、森林浴や木材がもたらす生理的・心理的リラックス効果や、免
疫力向上への期待が高まっています。



セラピー体験館
簡単な健康相談や森林セラピー効果測定が受けられる「森のお医者さん」も開
館。 (5月から10月末までの毎週木曜日 / 保健師・看護師は水曜・金曜日)

伊勢神宮御用材 御神木

御神始祭
Misomahajime Ceremony
古くから伊勢神宮の御用材として管理された赤沢美林。20年に一度の遷宮行事・御神始祭にあわせ、選びぬかれた御神木を各(ミキ)を使い三ッ指伐り(みつひもぎり)の技法で伐採される。



昭和50年(1985)伐採跡地



平成17年(2005)御神始祭の様子

美林を駆ける 森林鉄道

[0-2]



森林鉄道 Forest Railway
ディーゼル機関車に引かれた客車が、赤沢美林内を運行しています。
ポールドウィン号 The Baldwin locomotive、大正5年から昭和35年まで、42万キロを走り抜いた蒸気機関車。古き良き時代の客車が展示されています。1号機は製造から1世紀を経ており、近代化産業遺産・林業遺産にも指定されました。



NPO「木曾ひのきの森」

NPO法人「木曾ひのきの森」は赤沢自然休養林をベースに、森林資源の大切さと、薪暮らしを守る活動を展開しています。
赤沢自然休養林で、森林政策の「一案内」を行います。

水と土の循環を生み出す森林管理、とてつ六切の樹皮など、この自然の大切さ、木々の高さの美しさを、林業と共に生きてきた木曾の歴史を交えて紹介いたします。



森林環境の保全を行っています。

「木曾ひのきの森」では、森林資源の保全を確立するための活動を行っています。道歩道には、木材から出たヒノキの屑を敷き詰めた、踏圧による被害を軽減。また雨水で流した土砂を補充します。さらには、生態が衰えた植物を保護する活動も行っています。



学習、保護活動を進めています。

木曾の森林には、多くの植物が分布しており、赤沢美林には約五百種類に及びます。「木曾ひのきの森」では、案内所等に必要知識のほか、保護活動に欠かせない植物や希少種の学習などを行っています。



- ①オオヤマレンゲ
- ②キバナヤマオダマキ
- ③ショウジョウバカマ
- ④ヤマボウシ
- ⑤ハイカオウレン



赤沢美林のご案内ご希望・お申し込みは、下記 上杉町観光協会まで。
TEL 0264-52-1133



コヤマギ(コヤマギ科)
葉は細長く、多数集生しているがポイント、赤く艶やかな葉の材料に使用されている。



アスナロ(ヒノキ科)
葉は細く、ワロコ状の葉は広大な葉の材料。若い葉は赤く、葉の材料に選んでいる。



ネズコ(ヒノキ科)
葉は細く、葉はワロコ状の葉は広大な葉の材料。「ネズコ」はこの木の材料に選んでいる。



サワラ(ヒノキ科)
小ぶりのワロコ状で、葉の先がとがっています。薪割りに適する、薪や炭の材料に使用される。



ヒノキ(ヒノキ科)
葉の細く、ワロコ状の葉は広大な葉の材料。「ヒノキ」はこの木の材料に選んでいる。

木曾五木

赤沢美林に生息する5つの木曾五木を、この冊子で紹介しています。

中央アルプス国定公園に指定(二〇二〇年三月)

寢覚の床

[C-4]



白々とした大岩と青翠な山並み。その間に流れる水は、大岩の隙間に流れ落ち、水音が響き渡る。かつて木曾川を流れる濁りの水、濁りを奪く清流、はじき噴き出す歴史を刻むように置いた木曾川の地形は、今も昔も同じ。旅人の足音と水音が響き渡る。

Nezamenotoko

歴史・伝説にふれる 憩いの溪谷 寝覚の床

本曾川の四季にゆき、自然に癒される時。
アートを歴史の余韻も心に流れて。
昔からこれほど多くの旅人がこの風景に足を止め、
しばし岩と水の不思議な響きに見とれたことでしょうか。
今でもこの畏怖の地はアートのなまならずと。
歴史・伝説にふれる憩いの溪谷。
深い時が季節のなかに悠々と流れています。



寝覚の床 Nezamenotoko
浦島堂の小さな網が架かれる寝覚の床の大岩群の上へは登りたいに思いますが、本曾八景の幻想的な風景が周辺に眺められます。



雪の寝覚の床 Nezamenotoko snow scenery
新しい冬の雪化粧も寝覚の床の魅力です。周囲の木々が笹帽子のような純白の雪を纏い、大きな岩の間を練りように組架の空を映す本曾川の流れば、まるで一瞬の水風洞を見ているような美しさです。
冬の朝の寝覚の床は氷で滑りやすく危険です。十分注意をお願いします。

浦島伝説

寝覚の床、この不思議な名は、
晩年をこの地で過ごした浦島太郎の伝説に由来するもの。
現世に戻り、諸国をさまよった浦島太郎は、
土松の里が気に入って住みつき、
毎日、寝覚の床で好きな釣りを楽しみました。
床岩の上に祀られた「浦島堂」は玉手箱を開いて獲る遊び、
たちまち二百歳になつてしまつた。
その不思議な命の姿を語り継いでいます。



臨川寺(弁財天) Rinsenji Temple
名勝・寝覚の床を一望する古刹。本曾七福神の1つ弁財天を祀り、街道沿いの7つの古寺を結ぶ霊場にもなっています。境内には苔藓の千代田・山吹火の石罫、浦島太郎伝説の資料館があります。



臨川寺宝物館【C-4】 Rinsenji Treasure Museum
浦島太郎が愛用したといわれる釣竿や玉手箱のほか、古民具・古道具などを展示しています。



松原新英・正岡子規碑 Monument to Basho Matsuo & Shiki Masaoka
臨川寺境内には「岩かほに寝覚せうもの床の山」芭蕉「なほはじめ正岡子規、星復の俳人横井也右の石罫が架かす。



寝覚の床美術館 Nezamenotoko Park
寝覚の床に隣接する美術館。浦島太郎の伝説にちなんで「時空」をテーマにした屋外彫刻、地球の自転軸のゆらぎまで計算した巨大日時計のモニュメントなどが展示されています。



京八十五里、江戸から七十一里。

中山道上松宿を歩く

全長百二十九里、六十九宿を進める中山道。

そのうちの十一宿を数える木曾街道にあつて、上松宿は、古くから木曾物をはじめとする木の故郷として多くの仕事人と旅人を集めた活気と賑わいの宿場でした。

町を巡れば昔日を偲ばせる神社仏閣、山懐ある句碑や史跡名勝。江戸が今も鮮る見どころが多彩です。



木曾八景 ● 柳の夕照 [B-8]



③木曾八景 ● 柳の朝霞 [A-4]

木曾の棧 [A-4] Kiso no Kakehashi Viaduct
かつては、最も名の代名詞として古くから軍城にも認められ、中山道一の難所と言われた場所。木曾川の絶壁に数百メートルに渡って架けられた漆塗りの欄干が特徴でしたが、現在は旧道の下が石積みに変わって、新道の真影水とつながっています。



①木曾川と棧 [A-4]



⑤玉林院 [B-5] Gyokurin'in Temple
本堂家十六代は、木曾義元の二男にあたる玉将が創建したと伝えられる寺。建定樹齢200年の馬松と、明和3年(1766)造営の山門が美しい調和を見せ、天神堂(天満宮)横のシダレザクラは毎年美しい花を咲かせます。



⑦松尾芭蕉・正岡子規の句碑 [A-4]
Rock slabs engraved with the works of haiku poets, Basho Matsuo and Shiko Masaoka. 木曾の棧の対岸には芭蕉の「枝や 命をからむ 露かづら」の句碑が残されており、このほかにも上松町の各所には芭蕉や子規の句碑が点在しています。



-15-



④臨川寺 弁財天 [C-4]

赤沢自然休養林
森林遊道へ



木曾川

あげまつ

②玉林院

天神堂 (天満宮)

上松宿上町

諏訪神社

上松バイパス

⑤寝覚の滝

④臨川寺

②上松宿上町 [B-5]

Agenatsu Post Town

ひた足、野池に囲み入れるとそこは古い民家が軒を連ねる懐かしい風情が行み、仕舞の賑わいを感じています。

⑤小野の滝

安原

麻鳥神社

神明神社

至中津川

八里

中山道

至中津川

⑤小野の滝 [D-5] Omotachi Falls

中津川

木曾八景 ● 寝覚の夜雨 [C-4]

③木曾八景 ● 小野の瀑布 [D-5]

①木曾川と棧 [A-4]

⑤玉林院 [B-5]

⑦松尾芭蕉・正岡子規の句碑 [A-4]

②上松宿上町 [B-5]

④臨川寺 弁財天 [C-4]

⑤寝覚の滝

③木曾八景 ● 寝覚の夜雨 [C-4]

①木曾川と棧 [A-4]

⑤小野の滝 [D-5]

-16-

木曾 駒ヶ岳



南北およそ九十キロの中央アルプスへ木曾山脈の主峰、標高二、九五六メートルの木曾駒ヶ岳。
上松町は美しい高峠への玄関口にあたり、険しい岩肌、切り立つ山容は、のどかな野辺とは対照的に神々しい異彩を放ちます。
ぐるり三六〇度、幾重もの山ひたの間に閑に深く重なる。里山の季節の移ろいも美しく、岳と山の響きあいには旅の感動は一層高まります。

野次集集から木曾駒ヶ岳方面を望む

風越山

木曾八景 ● 風越の青嵐

木曾駒ヶ岳の麓にある、「風越の青嵐」は、木曾八景のひとつに数えられている。かつては牧草を育てるため、住民に頼まれていた大里山。里手は昔々とした草に覆われ、カサの草葉を風が波のように駆け上っていく風景も、山好きにとっては旅の「醍醐味」。

駒ヶ岳と中岳

駒ヶ岳夕照

麓の中央アルプス

Mt. Kazakoshi





駒ヶ岳神社例祭 [c-s]
Komagatakejinja Shrine Festival

本舞駒ヶ岳頂上に奥院がある駒ヶ岳神社の例祭。麓の里宮において行われ、国の選択無形民俗文化財に指定される「太々神楽(だいたいかぐら)」を奉納します。13座の舞台で構成される太々神楽は、400年以上前から伝わる奉納の舞で、地区の家々に一子相伝で伝えられており、門外不出とされています。舞台では、剣を手にした3人の舞手による激かな「三剣の舞」や、白い天狗の面を付けた4人が高々と舞う「四神五返舞」の姿が有名で、迫力ある振舞を見ようと毎年多くの観客・カメラマンが訪れます。
<毎年5月3日開催>



Suwajinja Shrine Festival (Agematsu-sai)

諏訪神社例祭(上松祭) [c-s]
上松町の諏訪神社と若宮八幡宮の例祭で、地獄舞臺と神楽神樂のおおくりが、旧中山道の道中を中心に盛大に執り行われます。八幡宮境内で行われる宵祭りは、「土若湯」と呼ばれる氏子の若湯中によって「若湯さうじ」といわれる地獄舞臺、獅子狂言が演じられます。翌日からは、町内を獅子舞が激しく舞い出し、諏訪神社本殿から出発し、八幡宮まで「泊し、翌日再び諏訪神社へと戻る神樂は、夜には御輿渡りや神楽の神し合いが繰り広げられます。上松では「一番大さなお祭りであり、祭りの期間中は、並々大社の音が響き、町は祭り一色に染まります。5月上旬」



晴れと
心の伝承。

祭

神秘に息をのみ、
熱気に目を奪われる感動。
一瞬の光景は、永遠の記憶になって
語り継がれていきます。

舞や踊り、ひとつの仕草に込められた歴史の奥義。
一挙手一投足に秘められた古式の祈り。
天下泰平、豊年饒作、感謝の気持ち、大事な節目を
職人に美しく飾るさまざまな祭事が、
感動を呼び覚まします。



Timber sledge drag race

全国木馬引き大会

木馬は、かつて山から木材を下す運搬
具として活躍していたツリです。往時の
姿を伝えるため、毎年数回に上松町
内で木馬を引く速さを競う大会が行わ
れます。距離は300mほど、いなる丸
太木を載せた木馬を、刀口滑車が引
張る様は大迫力です。



Ogawa Wakamyaajinja Shrine Festival

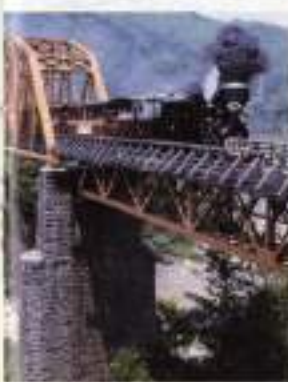
小川若宮神社例祭 [c-s]
上松町東の小川若宮神社の例祭。伝統
的な獅子狂言が四月下旬に三日間にわ
たて奉納されます。狂言は地元の若
連中による熟練です。特有の獅子狂言
「黒の黒」は、母と子の別れの辛さを演
じるもので、町の無形文化財に指定さ
れています。「黒の黒」では、一子晴明を
扮した後に安倍保名(安倍晴明の父)に
正体が白黒であることを知られた黒の
黒の、「悲しくは思ひもてみよ和泉を
信太の森のうらみ影の黒」の恨み詩を
子である晴明をあやしのから戸板に書
き付け、別れ去っていく様子が演じられ
ます。戸板に詩を書き付ける際、獅子
舞に舞を加えて行われます。小川若宮
神社の境内での奉納は、最終日の午後
です。

木曾森林鉄道と 鬼淵鉄橋

Keio Forest Railway Train & Onburi
Onburi Bridge

鬼淵鉄橋は大正二年に、当時の中央線上松駅から木村を貨車輸送するために架けられました。全長九十三メートル、トラス構造で、八幡製鉄所の鋼材を使用し、大阪の横河橋梁製作所が手がけたものです。設計は三根寄建夫、算科・技術も含め、初の純国産鉄橋といわれます。鉄橋の西側に小川郷土博物館の構設が分館し、特に土産館は昭和五十年五月の木曾森林鉄道歴史館（国内最後の森林鉄道）まで活躍しました。最盛期の木曾森林鉄道は木村だけでなく、人や物資の流通も担う木曾の大動脈でした。

その後の鬼淵鉄橋は車道橋として活用され、水年にならうて地域の交通を支え続けました。（上松町史「歴史編」より）



大宮神社

Omihara Shrine

天照大神伊弉丹尊成筒男命を祭神に祀る大宮神社では、毎年七月の中旬の土曜日に、日曜日と例祭が開かれます。町内のおよそ二〇〇戸を氏子に持ち、若衆によって各戸の悪魔払いが行われ、しきじき「お七」などの獅子神楽が奉納されます。また大宮神社は縄文人の遺構が発見されたことでも名を馳せました。昭和五十九年（一九八四）大雪で崩壊した鉄橋を再建費の確保と石器が発見されたこと、深い山中で遺構が発見されたことは非常に稀なことです。

五社神社

Gotaira Shrine

五社様と親しまれる五社神社は、天明年間（一七八一～一七八八）時の村木奉行・日々野源八が、木曾山川の安全とここに働く佃や日雇い労働者や事故が無事を願って建立されたといわれます。五社とは、御岳大権現（地元木曾地方の守護神）、然田大神宮（当時木曾を治めていた尾張藩主の居住地名古屋にある神社）、天照大神・伊弉神宮御神木を木曾より献上し、三嶋大神（東海道三嶋宮を本社とする山の神）、

姫測悲話伝説

Legend of the Hinokuchi Tragedy

高倉以仁王の御子（姫宮十五歳）は、宇治の戦いで逃げ落ちた父が木曾谷に隠れることを聞きつけ、追手の難をかわしながら、京から二人逃れてきました。ある時は村人にかくまわれ、またある時は後継を恐れ村人に見放されながら、必死に逃げるもついに小川の里で姫は見つかられてしまいます。姫の持つ香袋の香が追手に嗅ぎ付けられてしまったのでした。いよいよ道も果て、深い淵を前に逃げるすべをなくした姫は、逃げ来る途中で見た家に似た田圃風景を思い出し、懐かしい家族を想い、田圃の真似をしながら田圃歌を唱えます。そして、その清らかな声が



本天宮（後詳）船頭の安全を祈る水の神を祭ります。なお上松村水没所に祀られていた五社神社でしたが、明治四年（一八七二）村水没所の廃止を前に、上松町の鎮守諏訪神社の境内に移転されました。

八幡宮

Yatsu-hanmichi Shrine

本殿は江戸中期の代表的な社殿建築で、上松町では番古神社です。毎年五月土日には、祭木の頃、三河の神田七という人物から伝えられた「蒸きらい」と呼ばれる獅子狂言が若連によって上演されます。狂言の女方はすべて獅子が演じ、白木には十八の演目があります。

上松の御陣屋

Gotaira no Agomatsu

村木役所は御陣屋と呼ばれ、楯の丸太を使った芝土手を築き、入口に大砲を据える堅牢な陣地になっていました。山方一切の業務を取り上げた山村氏への尾張藩の警務、あるいは木曾谷住民全般に対する警戒とされる陣屋と推察され、正面支間の七尺二・三メートルの高土手には「御陣屋の松」と呼ばれた松が植えられていたとされます。

原畑用水

Urahata Gusei

寛永年間、上松村の名主・塚本惣兵衛は、水路方面の地主大戸市之丞とともに新田開墾に向けて清川から原野へ疎水を計画します。しかし、浅瀬等の恐れから反対に遭い、ついに御陣屋の防火用水という懸れ出しで工事を進めました。困難を極めた水路延長約二キロの大工事には、およそ六十年に及びました。用水は町郡、尾瀬、高尾各地区に上水道ができる昭和三十三年まで放流水や防火用水に利用され、現在もなお各方面に使われています。

不思議な浮石

Mysterious Floating Rock

その昔、水曾の橋から寝覚の床まで、行ったり来たりする不思議な石がありました。この石が流れると決まらず不幸な事が起き、それを聞いた旅の僧が一首歌を詠んでこれを鎮めました。里田には、成許や

蛙岩と

大蛇の伝説

Legend of Kawanabe Frog Rocks

大蛇が竜に出世するために山で千年、海で千年の修行が必要でした。むかし、御山に千年の修行を無事に済ませた一匹の大蛇が住んでおりました。木曾川を遡って海に出る必要がありましたが、困ったことに上松まで来ると大きな蛙が河原で待つので、どうも通れなくなりました。仕方がないので、大蛇は海に行くときに蛙をお願いをし、たくさん雨を降らせ大水にしてもらい、蛙の目に触れないように濁った水の中を泳ぎ、木曾川を下って海に出るようになったそうです。蛙岩が隠れると木曾川が氾濫し、正島の堤防を越えて浸水すると伝えられています。実際、昭和初期には正島地区のたぐりかた土地が水没したことが記録されています。

上松 旅の宿

宿泊料(目安:1泊2食,1名当たり) 民営3,000円~ 旅館10,000円~
位置図:折込マップ「上松町の観光ガイド」参照



樓温泉旅館[A-4]
TEL.0264-52-2276
●定員 35
●部屋数 9
●営業期間 通年



田政旅館[B-5]
TEL.0264-52-2053
●定員 50
●部屋数 12
●営業期間 1月4日~12月30日



民営 西小川[C-4]
TEL.0264-52-4009
●定員 18
●部屋数 6
●営業期間 通年



ねがめホテル[D-5]
TEL.0264-52-2245
●定員 85
●部屋数 20
●営業期間 通年



敬神キャンプ場[E-6]
TEL.0264-52-2547
●定員 30
●テント 50
●営業期間 通年 要予約
休業中



本曾殿山荘[E-6]
TEL.0573-72-4380
●定員 80
●営業期間 7月1日~10月上旬
●090-5638-8193



駒ヶ岳頂上本曾小屋[C-7]
TEL.0264-52-3882
●定員 100
●営業期間 GW6月中旬~11月3日



五乃窪山荘[C-7]
TEL.0264-52-2682
●定員 100
●営業期間 7月1日~10月休養の日(9月10日土止連休のみ)
●090-4161-8573



民営 さわくち[C-3]
TEL.0264-52-3422
●定員 50
●部屋数 13
●営業期間 通年



民営 去來荘[D-2]
TEL.0264-52-2602
●定員 30
●部屋数 7
●営業期間 本沢楽園開園中
休業中



木工藝品

Wooden Crafts
木曾産の良質な木材を素材に、天然の木目を生かした器、箱、鉢、蓋、茶筒などの工芸品は日常使いの道具として、また旅のお土産として人気を集めています。



木製品

Wooden Products
水気や湿気に強いセノキ、サワラ、コクヤマなどはそれぞれの特長と美しさを活かしてお風呂用品や湯桶などに加工され、木曾の特産になっています。

朴葉巻

Hoba Maki
香り豊かな朴の葉で、小豆の入った木曾のお餅を包んで蒸した木曾ならではの初夏の味。

伝承の手技

清らかな第一印象、温かい手触り。伝統の技、木の生命は、使い込むほどに愛おしく。豊かな森、良質な木材は、山に生きる人々の知恵をくすくす、卓越の技を引き出しました。木々に代表される伝統工芸の逸品、匠の作は、お土産に、調度品にぜひ選びたい上松町の宝ものです。



家具 Furniture

木曾五木のなかでもとくに木肌が美しいセノキは家具や建具などに使われ、その高貴で清潔感のある印象が愛されています。



檜の香り

Cypress Fragrance
檜独特の爽やかな香りのエキスを抽出、入浴剤や芳香剤などがあり人気を集めています。

ひのき精香 株式会社 / 0264-52-1020

古里の味わい

この味が堪らない、この食材でしか生まれない。丹精込めて作られる木曾の旨さは、知恵と工夫、伝承と精進のたまもの。一度食べたら忘れられない、不思議な魅力の世界です。里山は美味しさを季節毎に育みます。日々の暮らしは、かけがえない旨さを生み出しました。祖母から母へ、母から子に、親方から弟子へ、親父から跡取りへ。大切に受け継がれた郷土の味は、今ももちろしかり健在です。



五平餅 Gohhei Mochi

古製を御幣の形のように串に穿り出す。カラムシなどの入った餅でいたぐ、炭火で茹でた後揚げた木曾の銘物。

手打ちそば Soba Noodles

日本を代表するそばは、木曾産。風味豊かな動物と手打ちの技から生まれる絶妙な旨さに舌鼓。

そばまんじゅう Soba Manju

そば粉と大粒芋で練りあげた独特の風味とあっさりとした甘味。



季節の食材を使ったあたたかいお弁当はいかがですか。



おにぎり弁当

赤沢湖歩弁当 幕の内

上松宿のお弁当

「〇〇」から「手打ち」まで、食事は五日間までご用意いたします。お弁当の詳しいお問い合わせは、観光案内へご連絡ください。

Ono Lunch of Asamusa Town

旅のおもひで

—あなたの旅のおもひで—



木曾路周辺の観光

四季折々、素晴らしい自然が待ち受けるリゾート。国宝・重要文化財、歴史ある名所など信州には人気観光スポットが盛り沢山。上松までの旅行計画にプラスして木曾路周辺の魅力をたっぷり満喫してください。



上高地(松本市) / 車で2時間30分



松本城(松本市) / 車で1時間30分



白馬三山(白馬村) / 車で2時間30分



金沢(金沢市) / 車で50分



飛騨清見(木曽町) / 車で1時間



木曽馬の里(木曽町) / 車で30分



妻籠宿(南木曽町) / 車で40分



諏訪湖(諏訪市) / 車で1時間30分

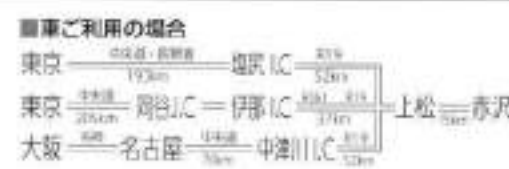
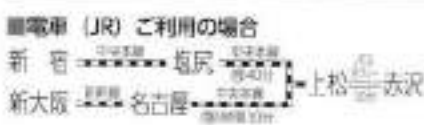


花田(伊豆市) / 車で1時間10分



天龍川(伊豆市) / 車で1時間

上松町への交通案内



お問い合わせ

(一社) 上松町観光協会
 〒399-5601 長野県木曽郡上松町大字上松159-3
 TEL.0264(52)1133 FAX.0264(52)4180
 上松駅前観光案内所 TEL.0264(52)4820
 ホームページ ● <https://kiso-hinoki.jp/>

ひのきの里上松町 公式サイト

[@taroh_agematsu](https://twitter.com/taroh_agematsu)
[@akasawaforest](https://www.facebook.com/akasawaforest)
[YouTube](https://www.youtube.com/channel/UC...)

木曾観光連盟事務局 〒399-6101 長野県木曽郡木曽町日義木曾文化公園内 TEL.0264(23)1122
 銀座NAGANO観光情報センター 〒104-0061 東京都中央区銀座5-6-5 NOCOビル2階 TEL.03(6274)6017
 長野県名古屋観光情報センター 〒460-0008 名古屋市中区栄4-16-36 久屋中日ビル4階 TEL.052(251)1441
 長野県大阪観光情報センター 〒530-0001 大阪市北区梅田1-3-1-800 大阪駅前第1ビル8階 TEL.06(6341)7006